

2 滋賀大学の産学公連携推進活動の概要

滋賀大学の産学公連携の意義

本学は、社会の「知の拠点」として、産業界や地域など社会の課題解決への貢献が重要と考え、産学公連携を重視している。また、平成 29 年に日本初のデータサイエンス学部の設置を契機に「文理融合大学」へと変革することにより、産学公連携の範囲が大きく広がり、様々な分野の企業や自治体・政府機関とも連携協定を結び、多彩な活動を行ってきた。このような状況を踏まえ、産学公連携推進本部として「産学公連携推進機構」を新たに設置し、組織的な対応を推し進めている。

主な取組みとしては、「社会連携コーディネーター制度」を設け、企業や地域との繋がりを作り出し、教育・研究リソースを活用した連携の強化を行っている。また、企業や地域のニーズに対応する社会連携を促進することを通じて、社会貢献と地域創成に貢献している。このような連携活動を展開するに当たって、「人材育成」、「産業支援」、「研究・コンサルティング」等といった取組みを行っている。

このように産学公連携を推進し、社会経済への発展に係る積極的な貢献と、企業及び自治体の期待への柔軟なマッチングを実現することで、本学と社会の Win-Win の関係が連続し、評価と持続性を高めていくことを意義としている。

